

2020年2月12日 千葉大学アカデミック・リンク・センター
ALPS プログラム 第5回シンポジウム 大学における教学マネジメントの確立に向けて
—学修者本位の教育の実現と教育・学修支援の役割—
参加者アンケート

当日参加者数： 86名 提出数： 53件

千葉大学アカデミック・リンク・センターは、教育関係共同利用拠点として、「教育・学修支援専門職」の養成のために必要な研修プログラムの構築・運営の準備に取り組んでいます。今後の活動のために、本日のシンポジウムに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。なお、記載いただいたご意見・ご感想は、個人名・組織名が特定できないかたちで公開する場合があります。

1. 本日のシンポジウムで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・教学マネジメント指針の成り立ちの背景がよくわかった。
- ・現在の教学マネジメントの焦点
- ・当指針に対して、どのように取り組むべきか理解できました。「主体的にとり組むべき（教職員が）」との一言が、一番ふに落ちました。
- ・「教学マネジメント指針」の意図や策定の経緯を知ることができました。
- ・教学マネジメント指針が単に理想を書いたものでなく、実態をふまえて作られたものであることがよくわかった。
- ・職員が大学運営にかかわることの重要性を改めて認識するとともに、実際に改善していくには大きな困難があるであろうと思った。
- ・教学マネジメント指針の目指すもの、考え方がわかりました。
- ・事務職員への期待が2（篠田先生講演）では理解できた。
- ・FD・SD／教学IRと教学マネジメントの相互関係の重要性。
- ・教学マネジメント指針の背景など。
- ・質問に答えていただきありがとうございました。
- ・政策動向やそのバックグラウンド。
- ・教学マネジメント特例委員会の傍聴をしていたこともあり、説明がとても分かりやすく、理解の浸透がより進んだように思いました。
- ・教学マネジメントの成立の過程、教職協働の現状。
- ・教学マネジメント指針の捉え方。何のためにマネジメントしていくのか再度考える機会を得ることができました。
- ・教学マネジメント指針はマニュアルではないと強調されていたのが印象に残りました。指針の趣旨を学内でどう実現させるのか考えなければと思います。
- ・指針の内容については、座長という立場では、これ以上踏み込んで語るのには難しいことと思います。改めて委員がどのような視点で議論を展開してきたのかを知ることが出来たのは有意義でした。
- ・教学マネジメントについては、ほとんどが新情報。
- ・教学マネジメント指針に関する考え方が理解できた。
- ・マネジメント指針の位置づけ。
- ・質疑応答時の各大学様の具体的な事例が参考になりました。
- ・教学マネジメント指針の背景、経緯。
- ・教学マネジメント指針のメッセージを感じ取れた。
- ・教学マネジメントについて、大学として進める際の留意すべき点について理解できたと思います。
- ・設置基準に職員の位置づけについての記述があること。
- ・教学マネジメントの指針策定までの考えが良く分かりました。
- ・学修成果と「卒業生に対する評価」「卒業生からの評価」が必要であることが分かりました。
- ・教学マネジメントについてよく理解できました。
- ・教学マネジメント指針の主旨と内容。
- ・教務・教学的なマネジメントについて指針をベースにイメージができた。
- ・教学マネジメントの重要性。FDとSDの一体化による教職協働体制の構築の重要性、その為の全員参加の大切さ。

(以上、原文まま)

2. 本日のシンポジウムで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・各教員がどのように教学マネジメントの各取組みに本気になれるか、という点が気になった。
 - ・強制されたものではない、ということですが、強制力をもたないようになるのは難しいのかなと思いました。
 - ・実質化に向けては、具体例をもっと聴きたかった。
 - ・大学職員としての経験が浅いため、基礎的な部分の勉強が必要だと感じた。
 - ・「教員中心から学生中心への改革」とのことでしたが、教学マネジメント指針作成に当たっては、学生の意見を聴く機会も反映させても良かったのではないかと思います。
 - ・大学職員論については、役割が増す中で、現状共有だけでなくと足踏み状態との印象をもちました。
 - ・お二人のご説明はよくわかりました。
 - ・今後の政策誘導のやり方（不安）
 - ・具現化、具体化。
 - ・卒業生アンケート（同窓生）は難しい。
 - ・「学修者本位」ということであるが、学生にどう分かりやすく伝えるかについて、もっと示唆して欲しい。
 - ・質問票で質問させていただきました。回答ありがとうございました。
 - ・教学マネジメントの大学の自主性と強制力のバランスが難しいこと。自主的に教学マネジメントを行うことが、今後どこまで広がっていくのか疑問。
 - ・学修成果の可視化の前提として、成績評価の信頼性の確保というものは全くその通りであると感じています。ここについても指針のなかで例示なり、問題点の指摘なりしていただければと感じております。
- (以上、原文まま)

3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- ・教職員が大学が置かれた状況、変化にアンテナをはるなことだと思います。
 - ・学生FDではごぞんじと思いますが富山大学の例に多くを学んでいます。
 - ・教職協働を深化させる必要があるが、そのためには職員の意識改革と学内における教職協働の意識醸成を必要とする必要がある。
 - ・IRを委員会にしており、各部署から職員を出しています。これにより入試のことを知らない教務や教務のことを知らない就職というのが緩和されたと思います。出てきた数字を委員長（副学長）に提出することにより職員の仕事を教員に知ってもらうこともできたと思います。
 - ・職員の職域について（職員によるアカデミックアドバイジングの可能性）
現在、職員として退学者抑制の観点で面談（休退、学修アドバイス）を行っていますが、業務として職員側、教員側にもいまひとつ理解が乏しい気がしております。職員としてカリキュラム等を踏まえ学生のアカデミックアドバイスの可能性について関心があります。
 - ・論理的思考能力。
 - ・本学は100%インターネット制大学で授業の制作において必ず全ての教員が専門スタッフとともに行います。これはある意味で、FDとSDの合体ではないかと思っています。
 - ・職員と事務処理者ではなく、ゼネラリストへ育成していくための取り組みや職員の意識、教員の意識への「働き掛け」が重要であると考えた。
 - ・本務校では現在、①FDとSDの推進、教職協働体制づくり、②教養教育の充実化、③在学生と卒業生の連携体制の構築など取り組んでいる。（ホームカミングデー、同窓会（礎会）の活性化）
- (以上、原文まま)

4. 本日のシンポジウムの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・具体的アドバイス、為になりました。
 - ・貴重な機会をいただきありがとうございました。
 - ・ありがとうございました。
 - ・より勉強をするきっかけとなりました。ありがとうございました。
 - ・昨今の文部省からの情報発信について、関連当事者から直接話を伺うことができ、大変有意義であった。
 - ・審議会議事録を読みましたが、直接部会長、委員からお話を伺い、内容について深く理解することができました。大学に帰って学長を始めとして説明をし、その後、学内での議論に活かしたいと思います。ありがとうございました。
 - ・日比谷先生のお話は大変面白かった。教学マネジメント指針の全体像を明確に理解することができました。篠田先生については、職員の在り方について、再認識することができました。
 - ・大変勉強になりました。本学も教学マネジメント指針については「マスト」になっていて考えが固くなっている所がありました。「マニュアルでない」ことを念頭に置きながら、「最低限」ということも考えてサイクルを廻していきたいと思います。
- (次ページに続く)

